



2014年度（2015年3月期） 第4四半期 決算説明会

2015年 4月30日

セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

■ 2014年度以降の業績開示について

2014年度からIFRSによる業績を開示（実績ならびに予想数値はIFRS）

比較対象となる2013年度実績値もIFRSに置き換えて表示

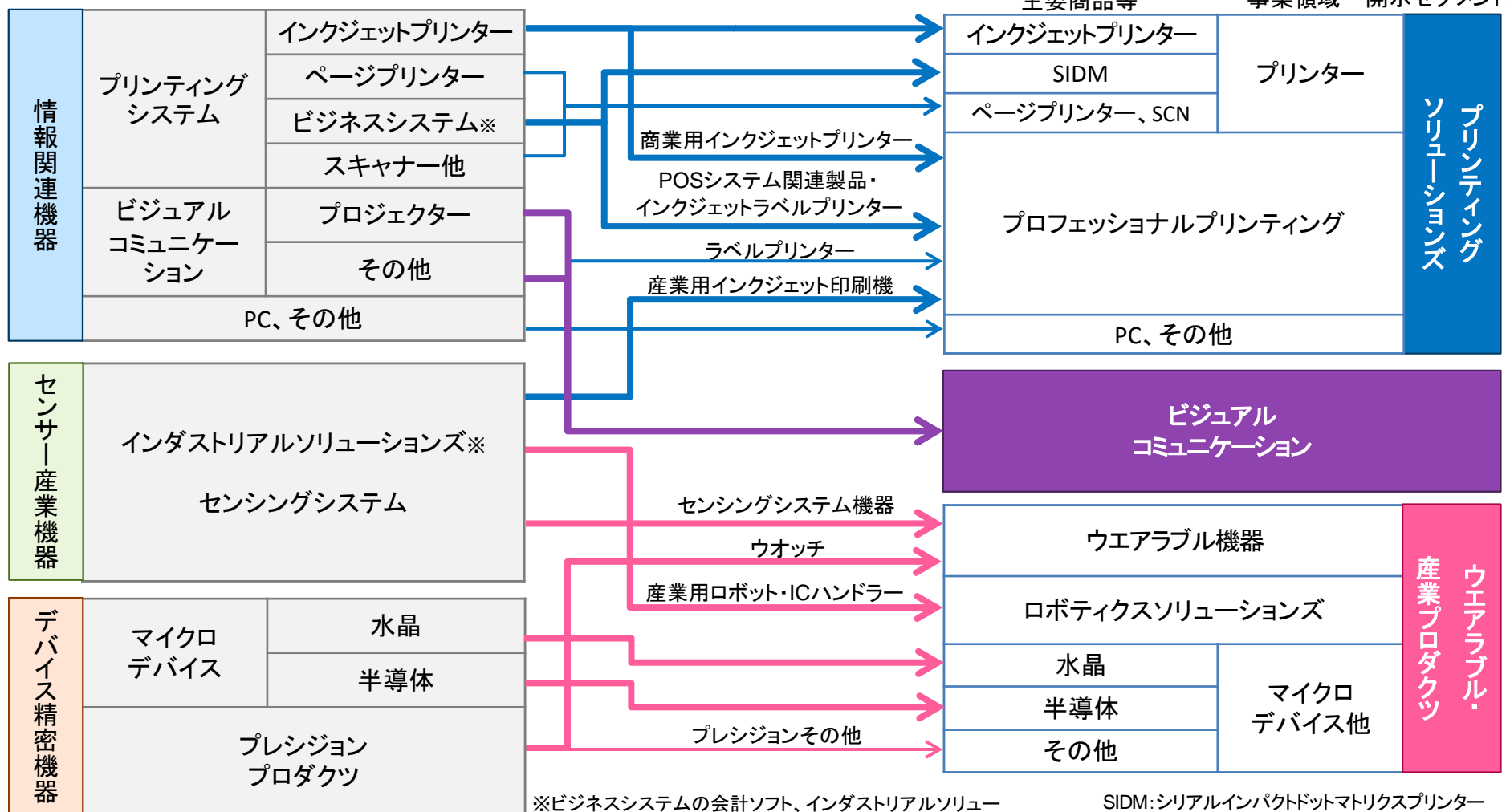
※ 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。
連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の事業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

開示セグメントの変更について

SE15後期 新中期経営計画の総仕上げと、
2015年度の事業計画達成、および2016年度以降を見据えた最適フォーメーションを構築する

2014年度開示セグメント

2015年度開示セグメント



※ビジネスシステムの会計ソフト、インダストリアルソリューションズのインクジェット工業応用は全社へ

SIDM: シリアルインパクトドットマトリクスプリンター
SCN: スキャナー

2014年度通期決算
2015年度業績予想

2014年度
第4四半期決算

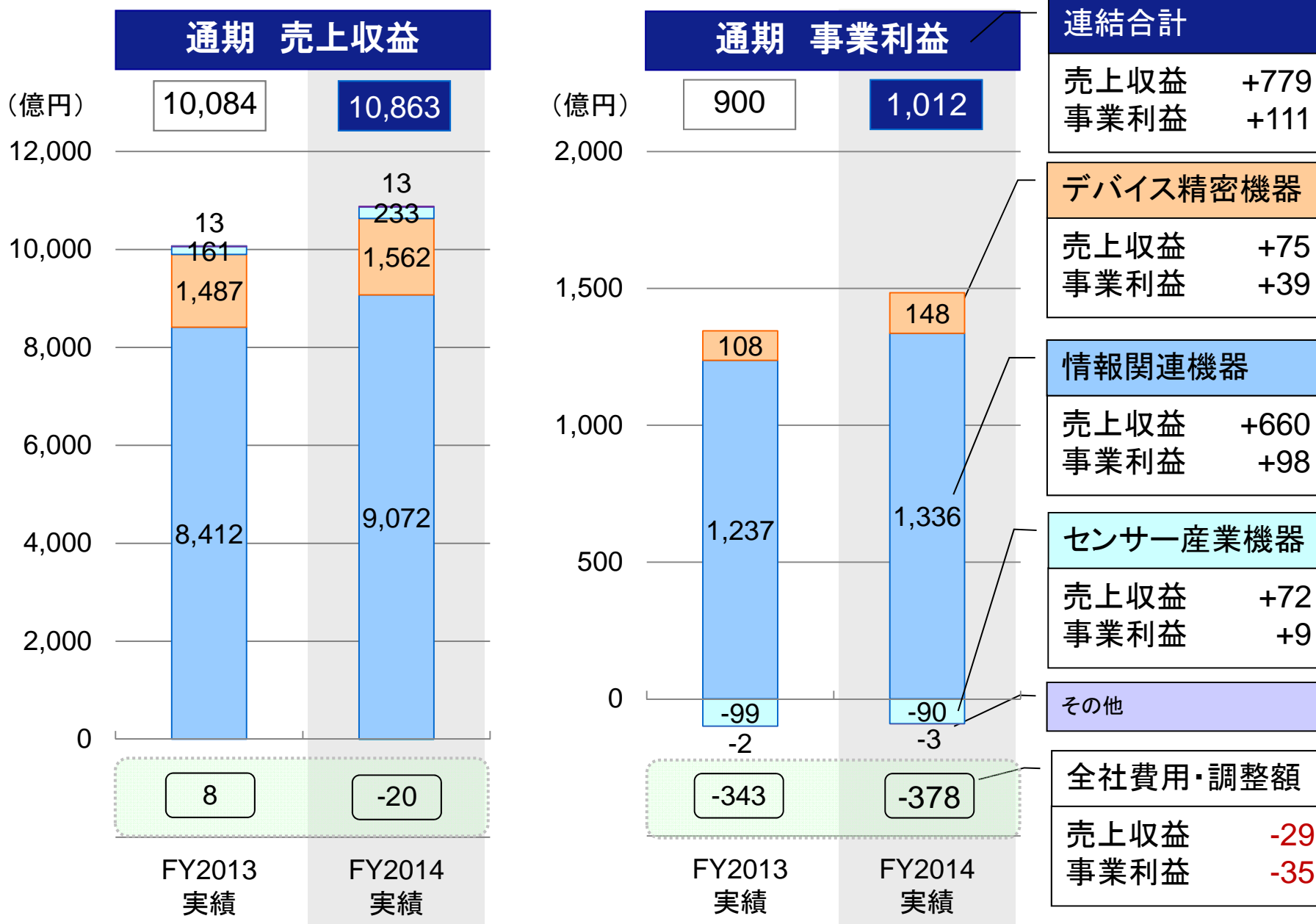
決算ハイライト(通期)

	2013年度		2014年度				前期 実績比	前回 予想比
	実績	%	1/30予想	%	実績	%		
(億円)								
売上収益	10,084	-	10,900	-	10,863	-	+779 +7.7%	-36 -0.3%
事業利益	900	8.9%	1,050	9.6%	1,012	9.3%	+111 +12.4%	-37 -3.5%
営業利益	795	7.9%	1,320	12.1%	1,313	12.1%	+518 +65.2%	-6 -0.5%
税引前利益	779	7.7%	1,320	12.1%	1,325	12.2%	+545 +70.0%	+5 +0.4%
当期利益	844	8.4%	1,110	10.2%	1,127	10.4%	+283 +33.6%	+17 +1.6%
EPS	235.35 円		310.25 円		314.61 円			
換算 レート	USD	100.23 円	109.00 円		109.93 円			
	EUR	134.37 円	139.00 円		138.77 円			

前回 予想
4Q為替レート前提
USD: 115.00円
EUR: 135.00円

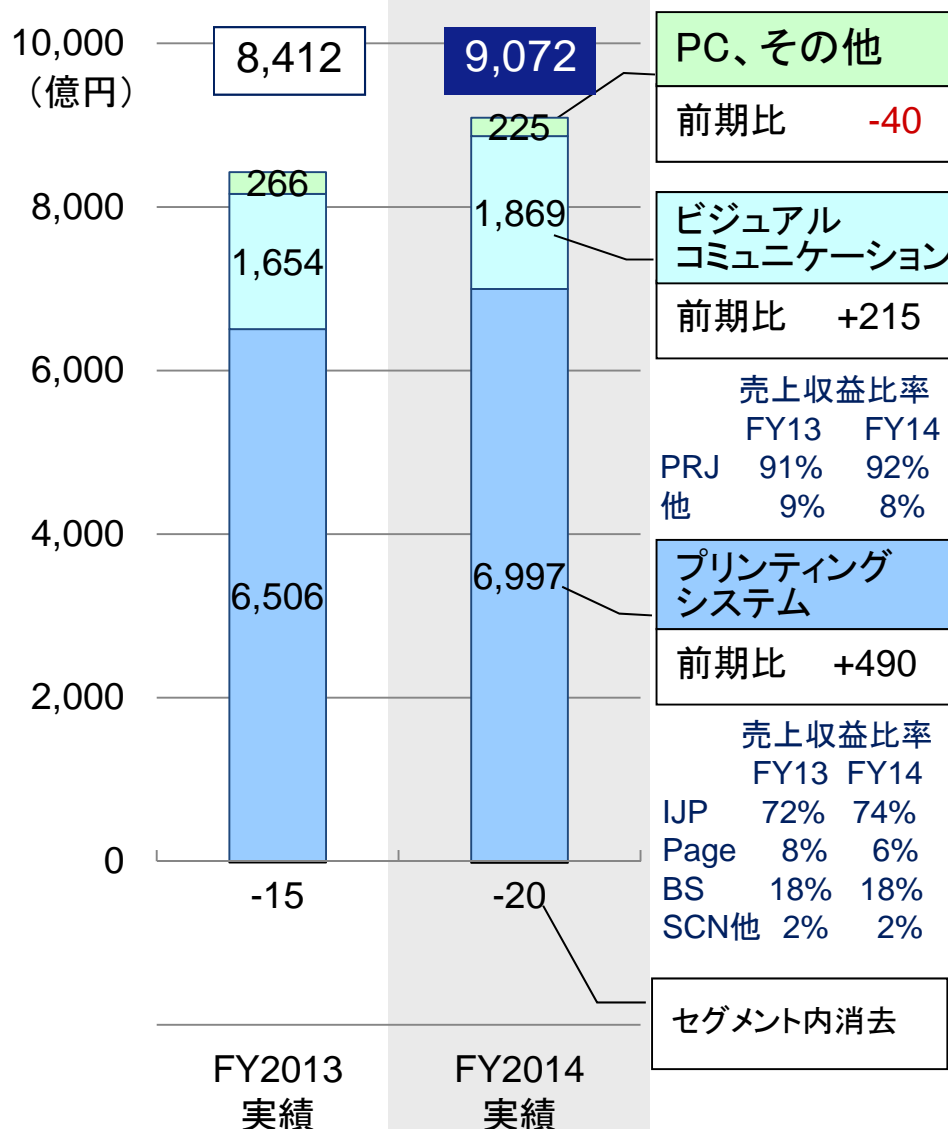
2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施
EPSは、株式分割後の発行済み株式数(自己株式除く)により算出

2014年度業績▶事業セグメント別

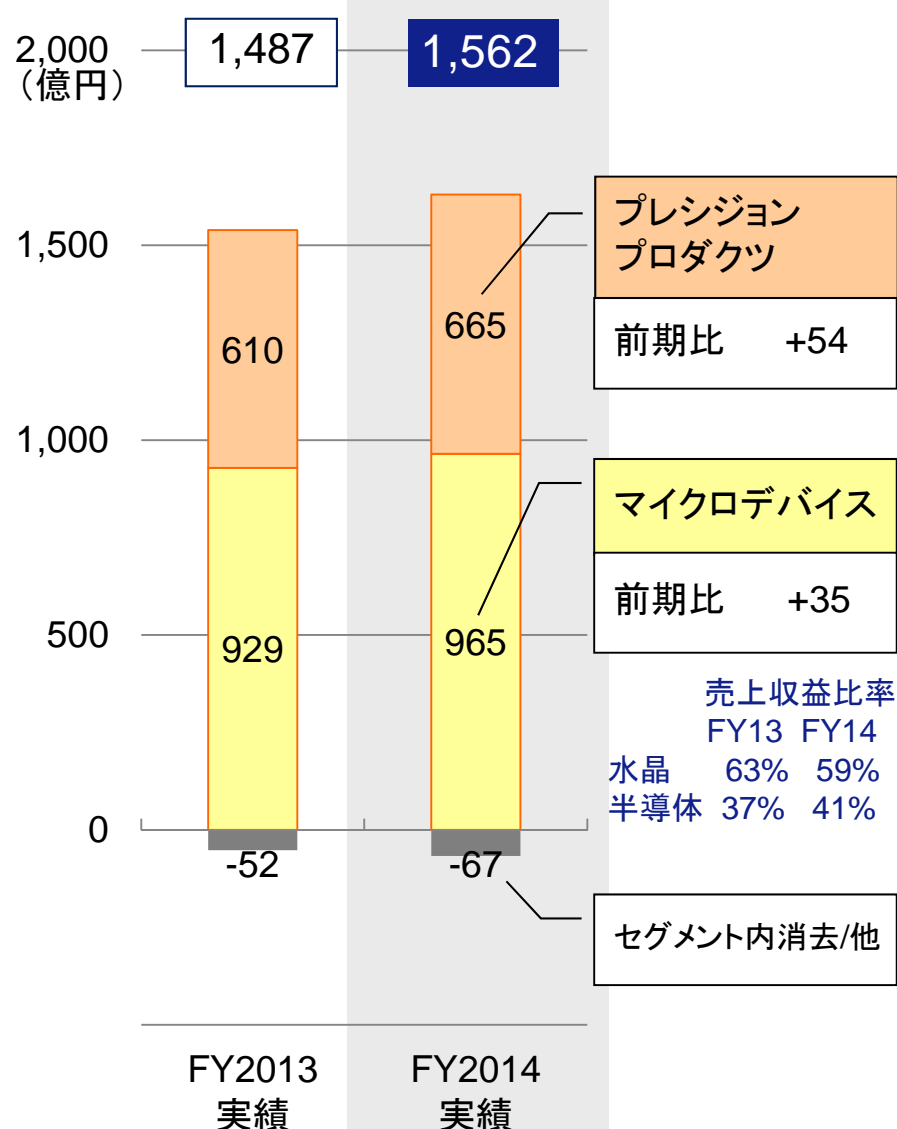


売上収益比較(通期)

▶情報関連機器事業セグメント



▶デバイス精密機器事業セグメント



※ IJP: Inkjet printers Page: Page printers BS: Business systems SIDM: Serial impact dot matrix printers
 POS: Point of sales SCN: Scanners PRJ: Projectors

- ◆ SE15後期 新中期経営計画に基づいた施策を着実に遂行
 - ✓ 将来成長に向けた技術開発、新商品投入、新ビジネスモデル導入が進展
 - ✓ 施策の進展に加え円安影響もあり、ブランド強化費用など将来に向けた積極的な費用投入を進めながらも、全てのセグメントで増収・増益を達成

IJPのビジネスモデル転換加速

- 大容量インクタンクモデルの数量成長継続と西欧への投入
- PrecisionCoreプリントヘッド搭載オフィスIJPの投入と、課金ビジネスの開始

商業・産業分野のアナログ印刷からデジタル印刷への転換加速

- サイネージ、テキスタイル、業務用フォト等の商業印刷用IJPの拡充
- ラベル印刷用IJPのラインアップ拡充

ビジュアルコミュニケーションの質の転換加速

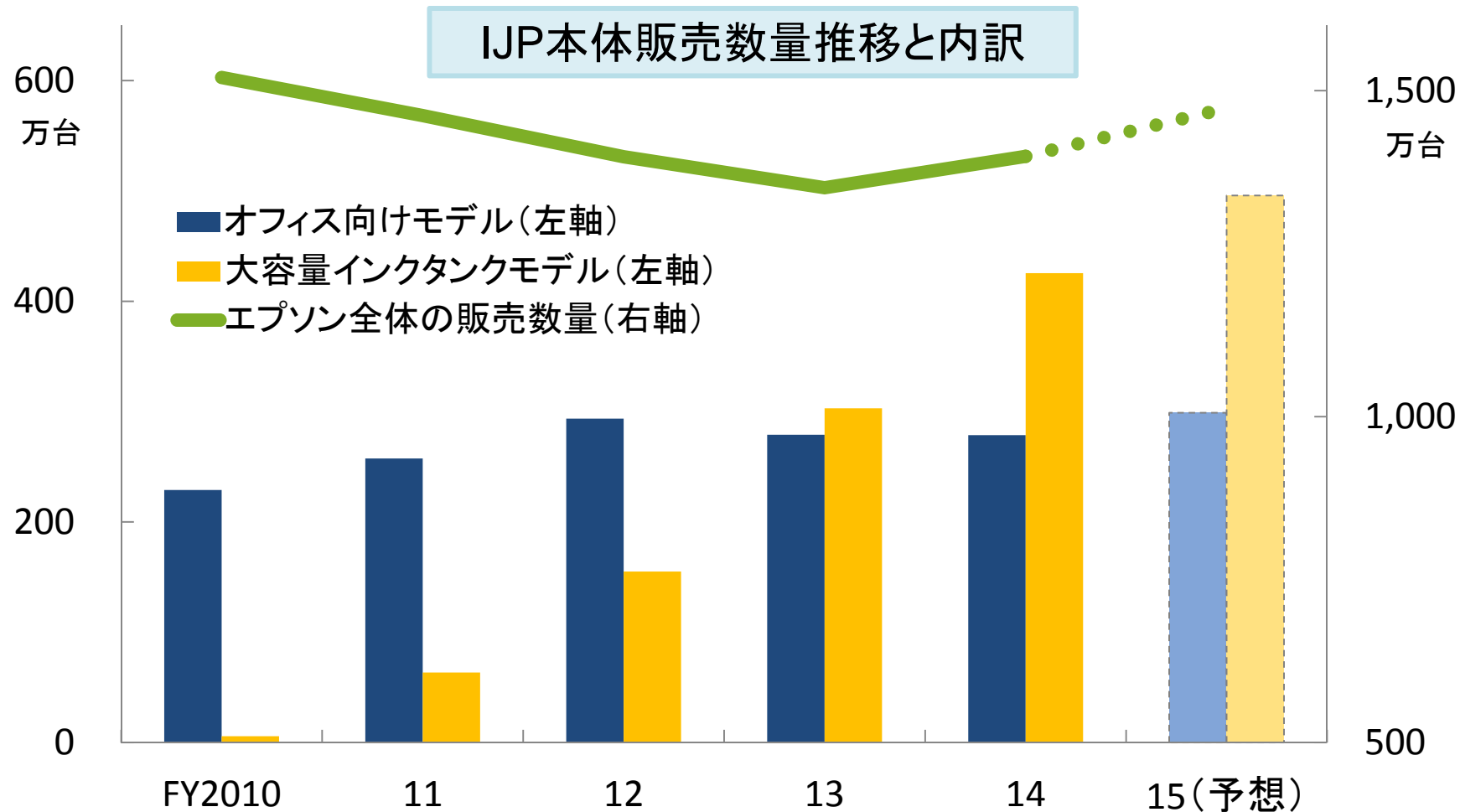
- 高付加価値プロジェクターからスマートグラスまで、商品を拡充

生活の質改善、ものづくり革新の加速

- 健康・スポーツ分野で新商品を矢継ぎ早に投入
- 産業用精密組立ロボットの市場拡大をけん引

<IJPの戦略進捗状況>

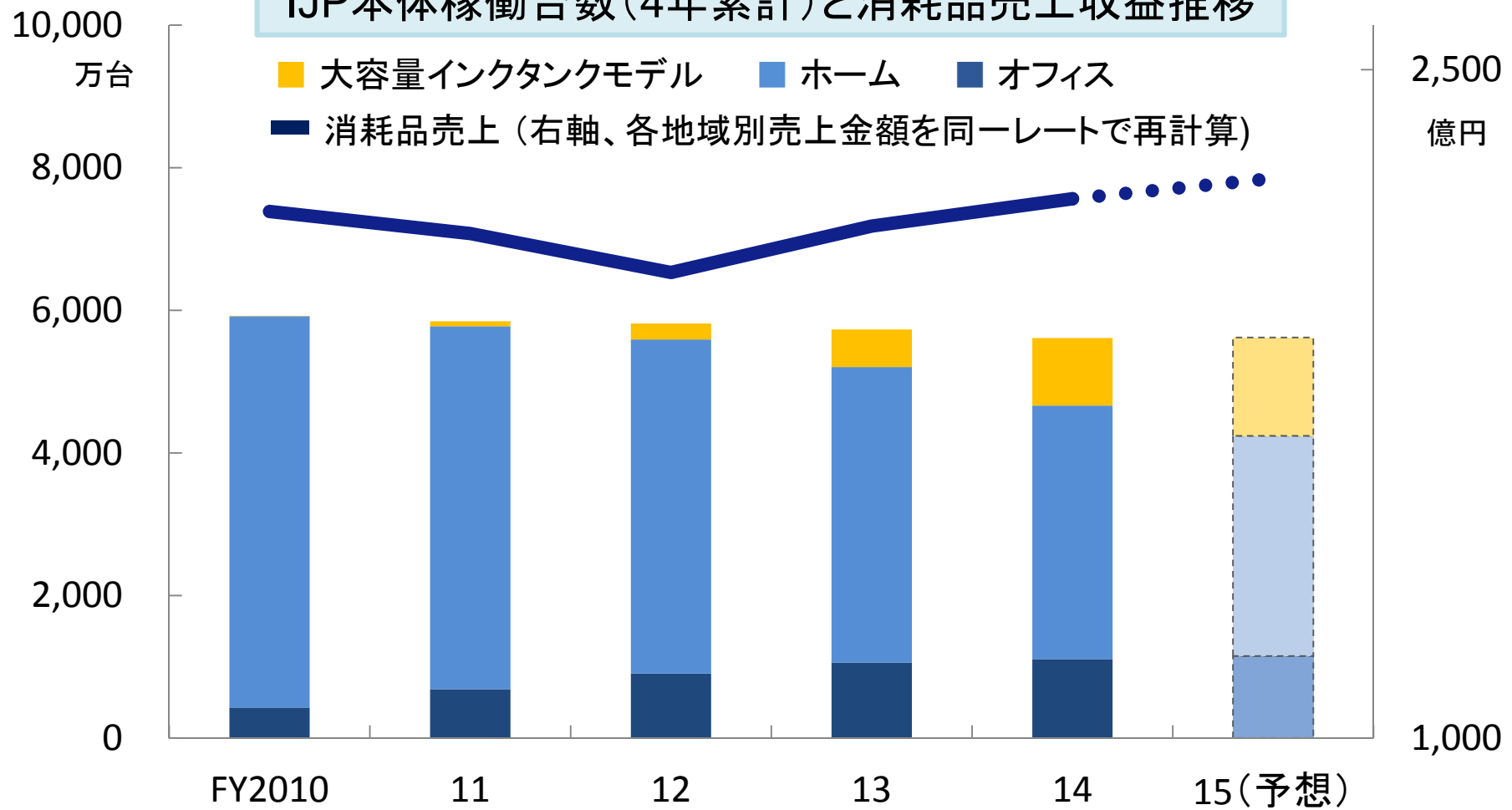
- ◆ PrecisionCoreプリントヘッド搭載モデルの投入によりオフィス向け強化・拡大
- ◆ エマージング市場における大容量インクタンクモデルの浸透・拡大と先進国投入



SE15後期 新中期経営計画の進捗

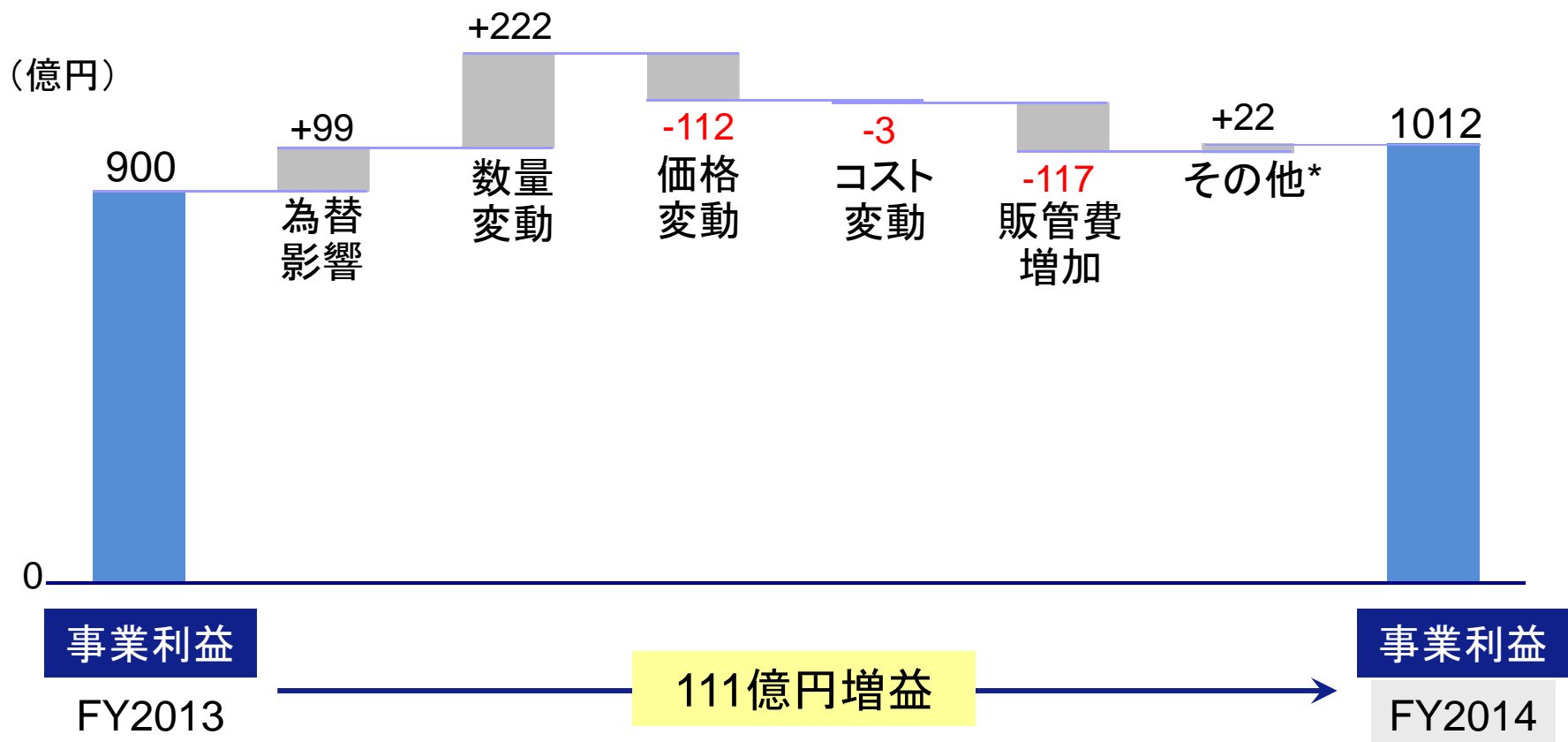
- ◆ IJP MIF(市場稼働台数)の改善によるインクの売上増加
 - ✓ ホームはハイエンドに注力、オフィスはMIFの拡大と質の改善を並行して推進
 - ✓ 結果として、消耗品売上(為替影響除く)のトレンドは着実に改善

IJP本体稼働台数(4年累計)と消耗品売上収益推移



2014年度 事業利益増減の要因分析

- ◆ 数量変動は、大容量インクタンクモデル、プロジェクター、IJP消耗品等の販売増加による
- ◆ 価格変動は、半導体、プロジェクターなどの商品構成の変化が主要因。IJPは、一部地域でASP低下があったものの、大容量インクタンクモデルの構成比も上昇し、影響なし
- ◆ コスト変動は、モデルミックス変化に応じ変動費は減少した一方、償却費や業績連動費用などの増加により、前期並み
- ◆ 販管費は、新規事業領域拡大のためのプロモーション強化費用を積極投入



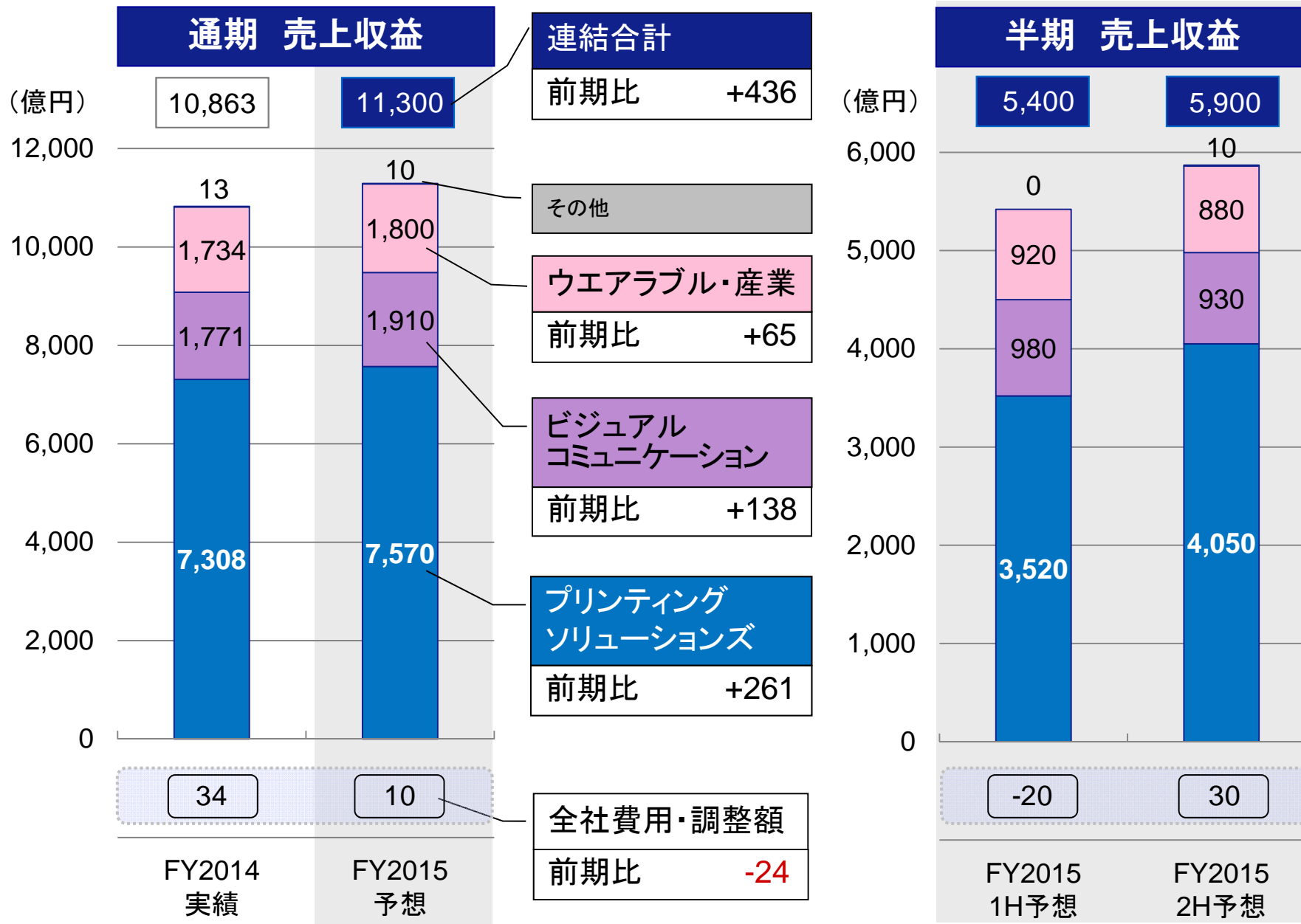
*: 全社費用セグメント及び各セグメントにおいて類似商品同士の比較に適さない商品・事業の増減の総計

2015年度 業績予想

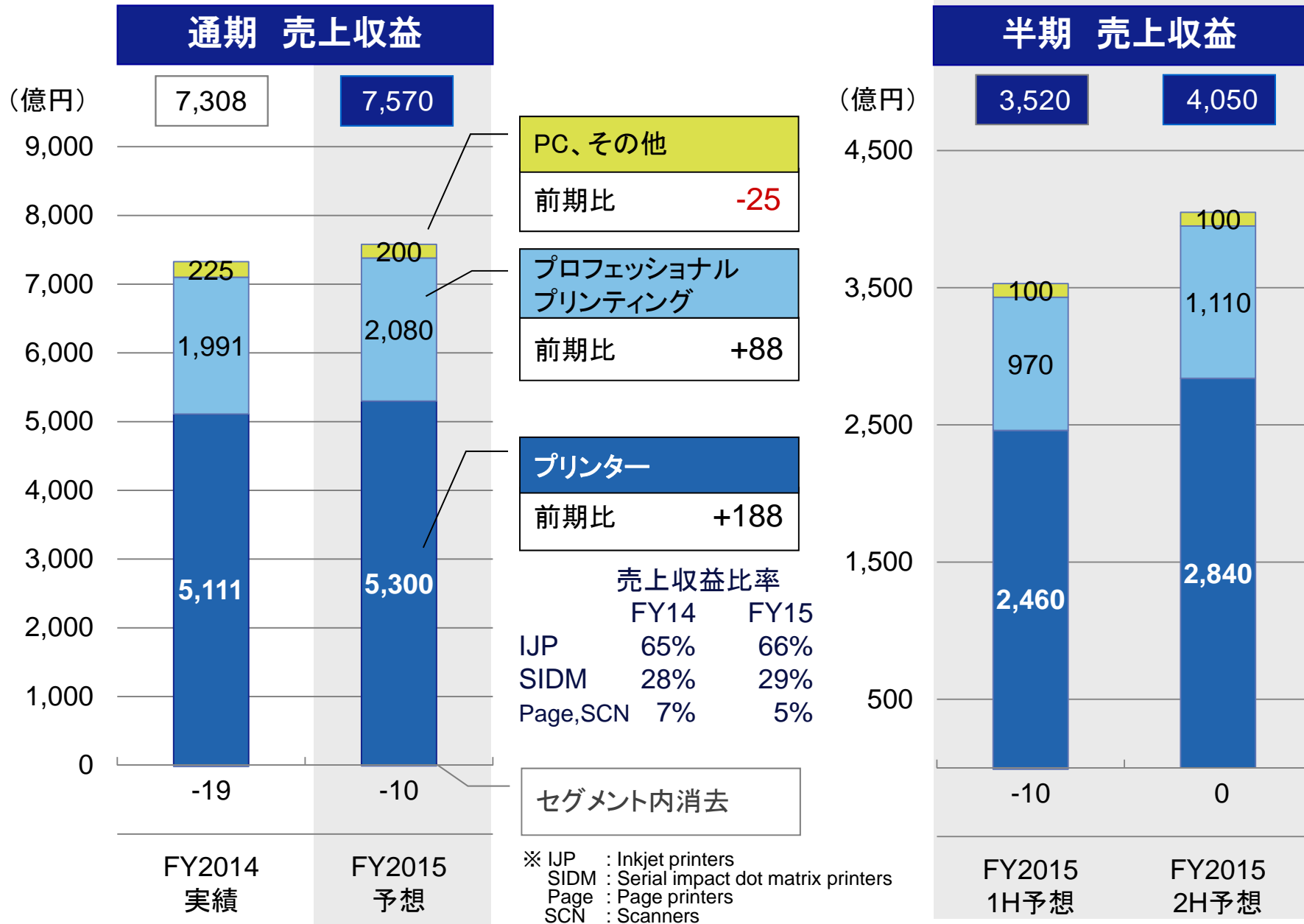
(億円)	2014年度		2015年度		増減額	増減率								
	通期実績	%	通期予想	%										
売上収益	10,863	-	11,300	-	+436	+4.0%								
事業利益	1,012	9.3%	1,020	9.0%	+7	+0.7%								
営業利益	※ 1,313	12.1%	1,000	8.8%	※ -313	-23.9%								
税引前利益	1,325	12.2%	1,000	8.8%	-325	-24.5%								
当期利益	1,127	10.4%	700	6.2%	-427	-37.9%								
EPS	314.61 円		195.65 円		※ 2014年度営業利益には、年金制度改定益約300億円に加え、固定資産売却益など、一時的な利益を計上 為替感応度(1円円安の年間影響額)									
換算 レート	USD	109.93 円	115.00 円											
	EUR	138.77 円	125.00 円											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>売上収益</th> <th>事業利益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>USD</td> <td>+約39億円</td> <td>+約2億円</td> </tr> <tr> <td>EUR</td> <td>+約12億円</td> <td>+約8億円</td> </tr> </tbody> </table>			売上収益	事業利益	USD	+約39億円	+約2億円	EUR	+約12億円	+約8億円
	売上収益	事業利益												
USD	+約39億円	+約2億円												
EUR	+約12億円	+約8億円												

2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施
EPSは、株式分割後の発行済み株式数(自己株式除く)により算出

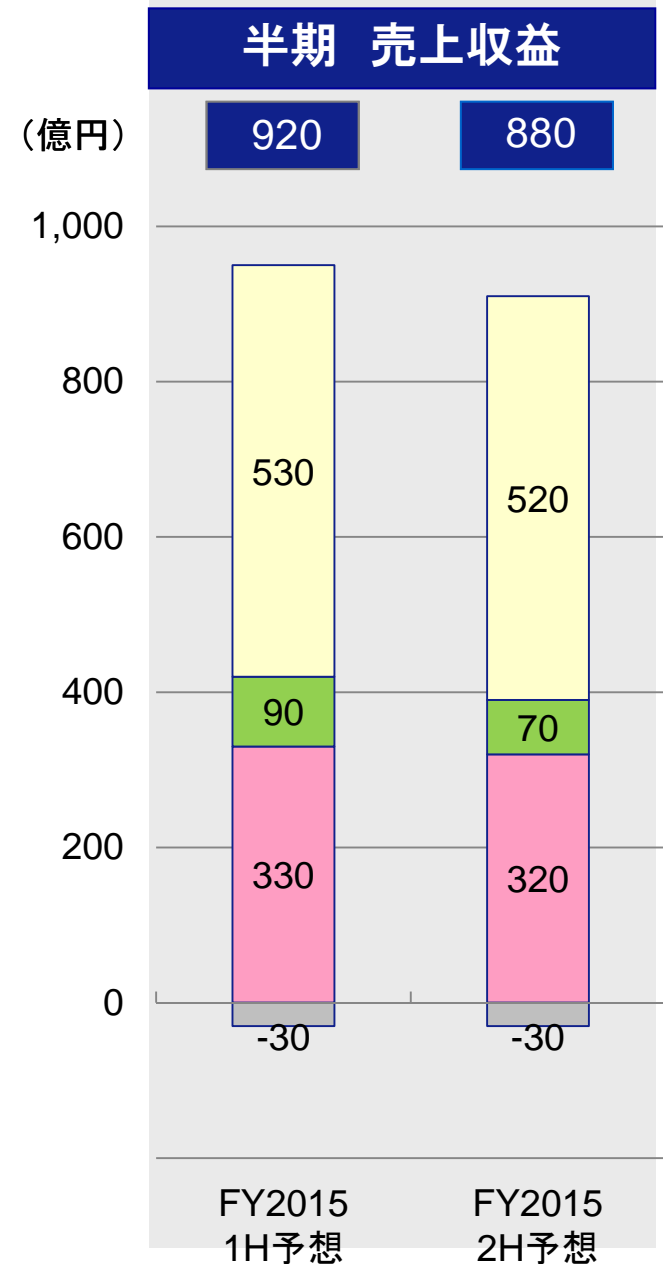
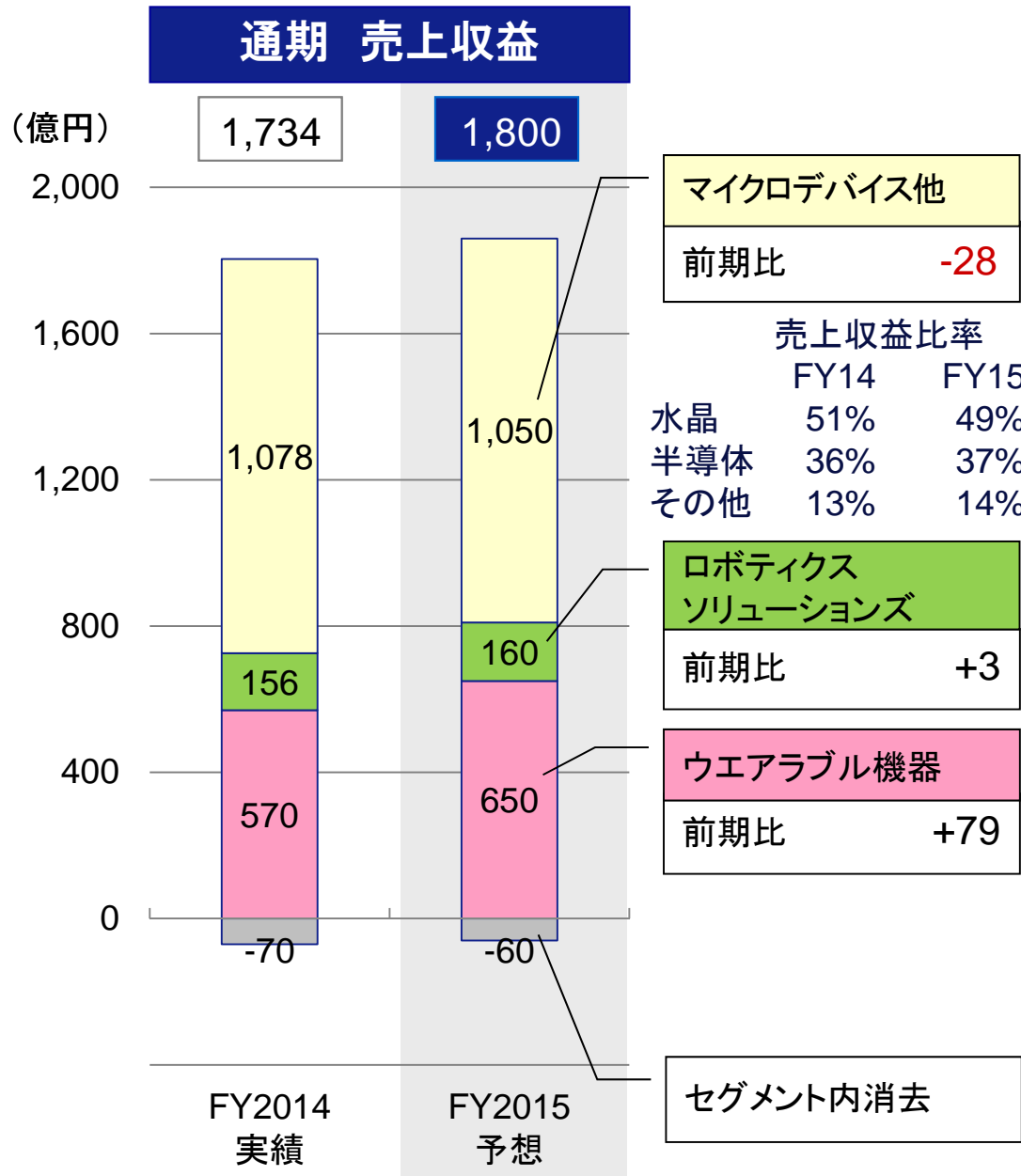
2015年度業績予想(売上収益)▶事業セグメント別



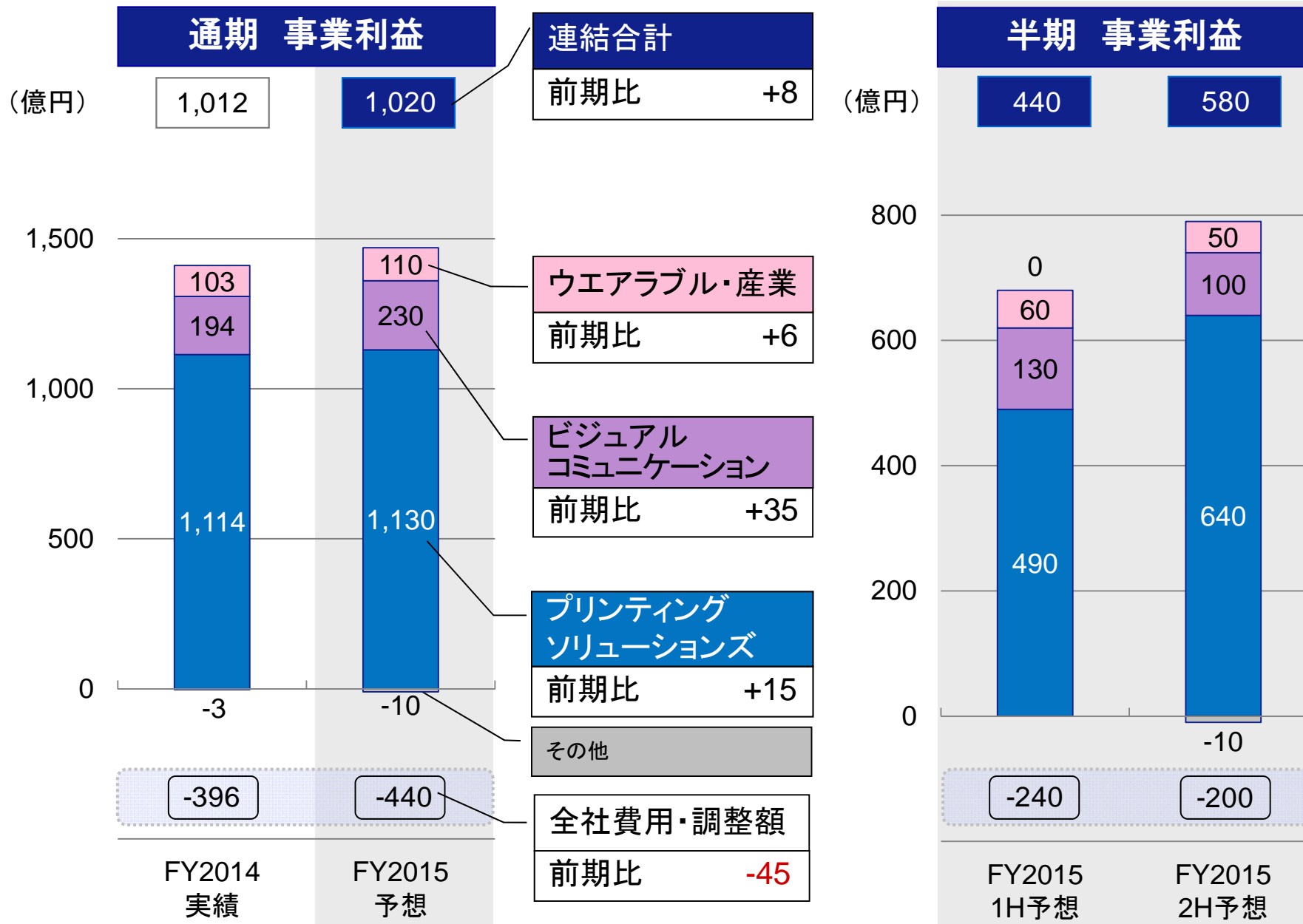
事業別売上収益予想 ▶ プリンティングソリューションズセグメント **EPSON** EXCEED YOUR VISION



事業別売上収益予想 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント

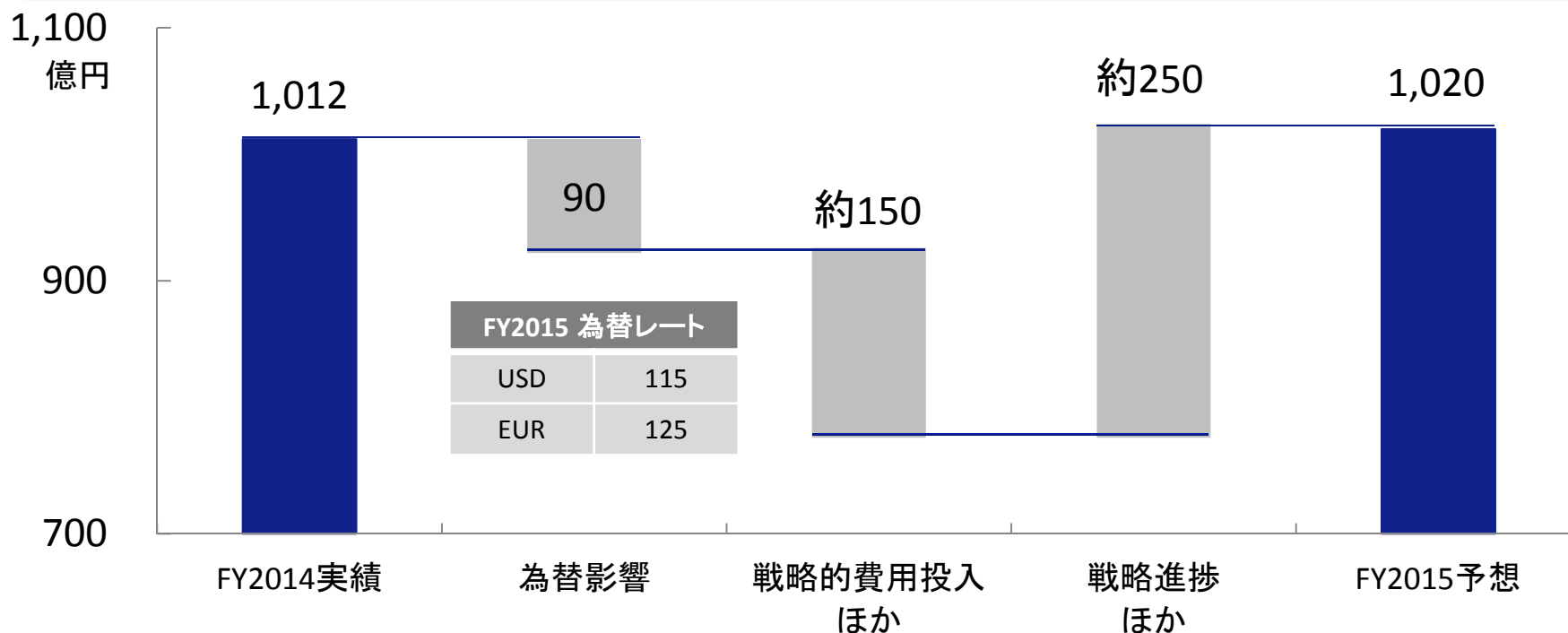


2015年度業績予想(事業利益)▶事業セグメント別



2015年度のポイント

- ◆ SE15後期 新中期経営計画の最終年度として、着実に戦略を進める
 1. 中長期的な成長を見据えた戦略的費用を投入する
 - ✓ 戦略商品の量産に向けた研究開発の強化
 - ✓ エプソンブランド強化・新規領域拡大のためのプロモーション強化
 2. 過度な売上高成長によらず、既存領域転換と新規領域開拓を進め着実に利益成長する
 - ✓ 大容量インクタンクモデル、IJPのMIF改善による消耗品販売拡大
 - ✓ 市場成長を上回るプロジェクターの販売拡大
 - ✓ ウェアラブル機器・産業プロダクツなど新規事業領域の売上拡大



エプソン内部管理資料による分析

新体制でお客様価値創出による成長を加速する

持続的な成長軌道を確認たるものにするため、経営リソースの融合と全社最適を図る

プリンティング
ソリューションズ

プリンター



プロフェッショナル
プリンティング



- ◆ インクジェットプリンターの強みを生かし、商品構成・ビジネスモデルの転換とオフィス領域の開拓を進める
 - ✓ オフィス向けインクジェットプリンターによる、レーザープリンターの置き換え
 - ✓ 大容量インクタンクモデル、課金ビジネスなど新しいビジネスモデルの創出
- ◆ インクジェットプリンターにより、アナログからデジタルへ、印刷・捺染業界の業務プロセスを変える

ビジュアル
コミュニケーション

ビジュアルプロダクト



- ◆ マイクロディスプレイ技術による大画面と、インタラクティブ技術でコミュニケーションのあり方を変革する

ウェアラブル
機器



産業プロダクト
ウェアラブル・

ロボティクス
ソリューションズ



マイクロデバイス
他



- ◆ センシング技術やウェアラブル技術により、健康や安全など人々の生活の質向上に貢献する
- ◆ ロボティクス技術により、生産現場の自動化を進め、ものづくりのあり方を革新する
- ◆ デバイス技術を生かし、社会の基盤とエプソン独創の技術を下支えする

2014年度通期決算
2015年度業績予想

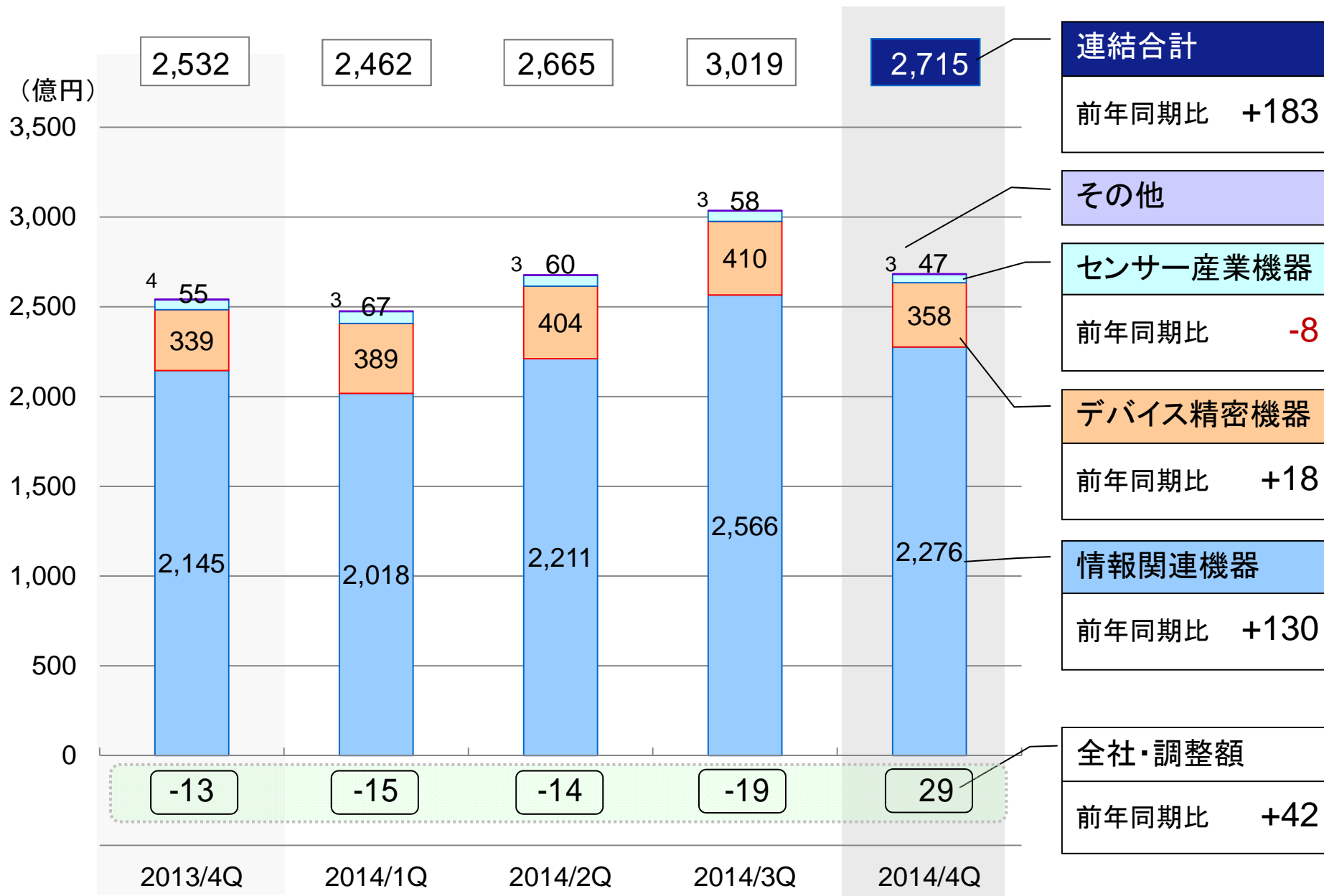
2014年度
第4四半期決算

決算ハイライト（第4四半期決算）

	2013年度		2014年度			
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
(億円)						
売上収益	2,532	-	2,715	-	+183	+7.2%
事業利益	134	5.3%	158	5.8%	+23	+17.1%
営業利益	90	3.6%	207	7.6%	+116	+129.8%
税引前 四半期利益	74	3.0%	199	7.3%	+124	+165.9%
四半期利益	※ 417	16.5%	221	8.2%	※ -195	-46.8%
EPS	116.38 円		61.72 円		※2013年度4Qの四半期利益は、急激な業績回復により、多額の繰延税金資産の積み増しが発生し、税金費用が大幅なマイナスとなった 前回予想 4Q為替レート前提 USD: 115.00円/EUR: 135.00円	
換算 レート	USD	102.78 円	119.09 円			
	EUR	140.79 円	134.17 円			

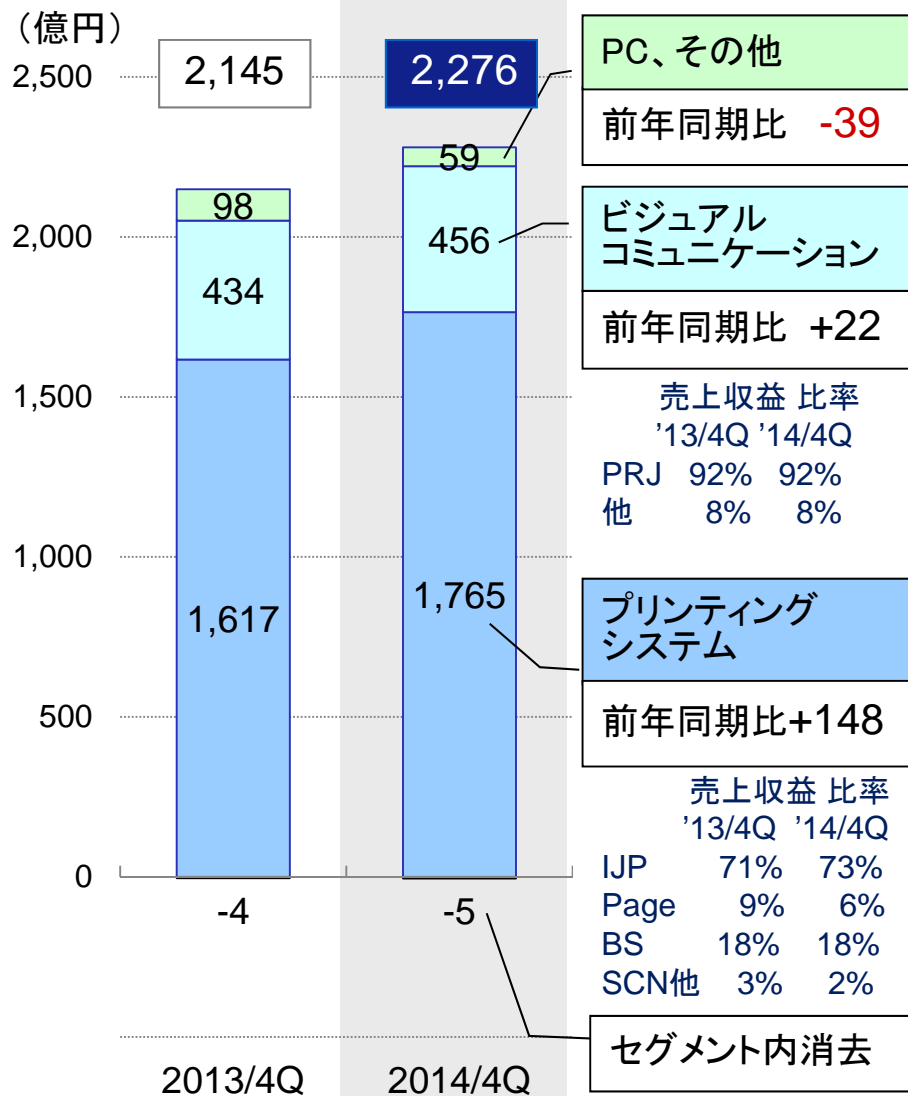
2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施
EPSは、株式分割後の発行済み株式数(自己株式除く)により算出

四半期売上収益推移 ▶ 事業セグメント別

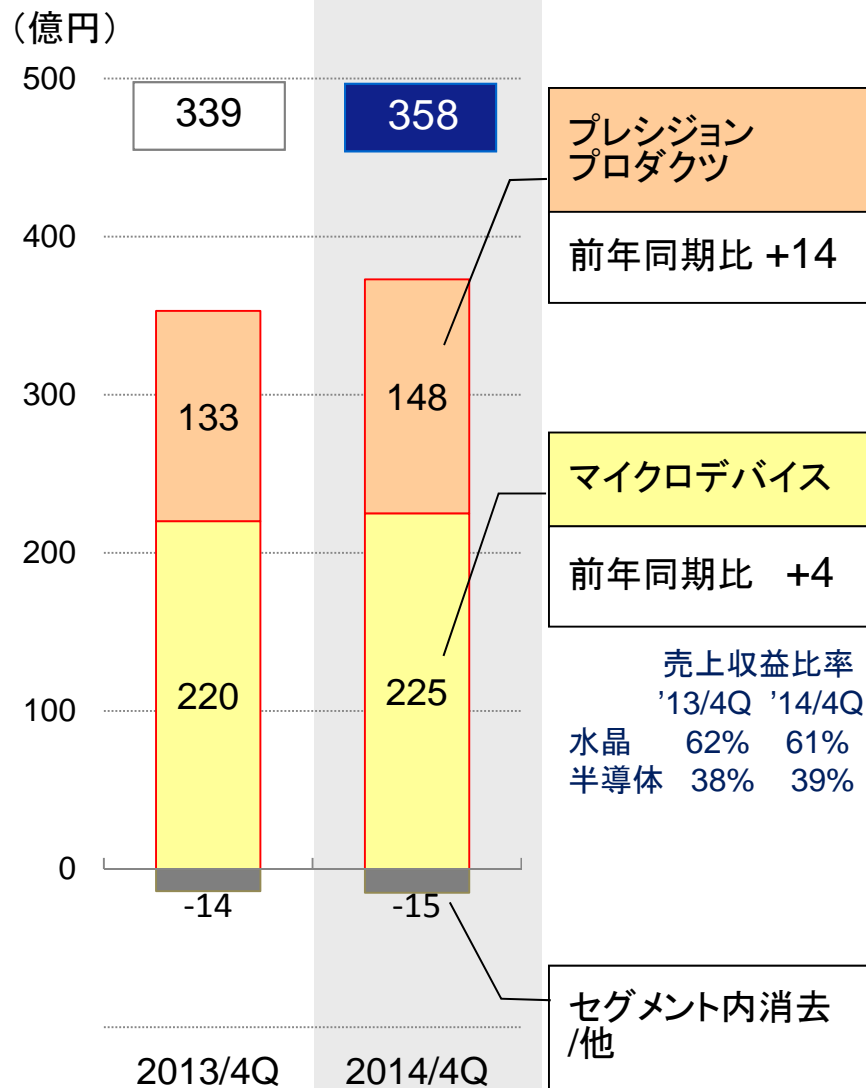


四半期売上収益比較

▶情報関連機器セグメント

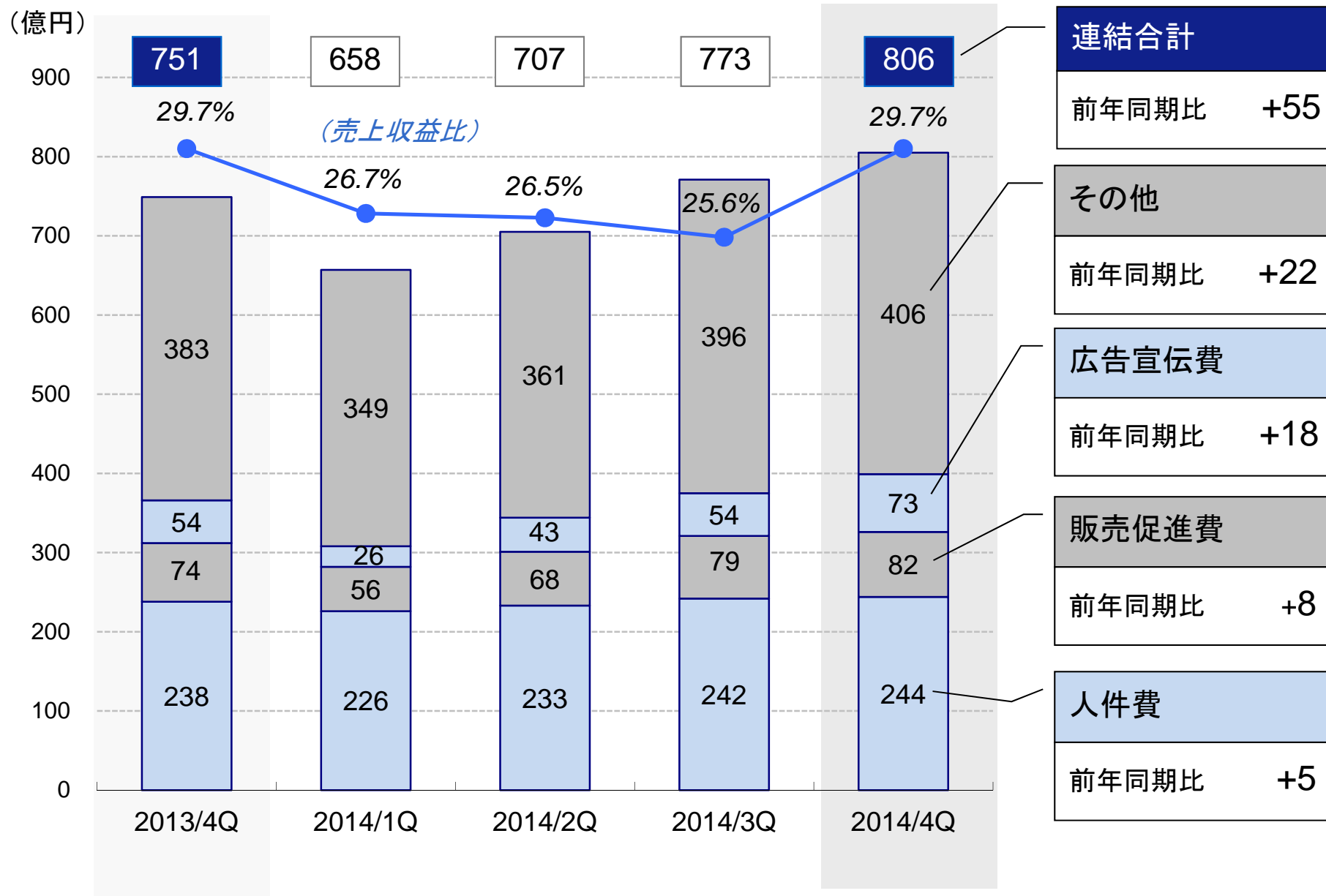


▶デバイス精密機器セグメント

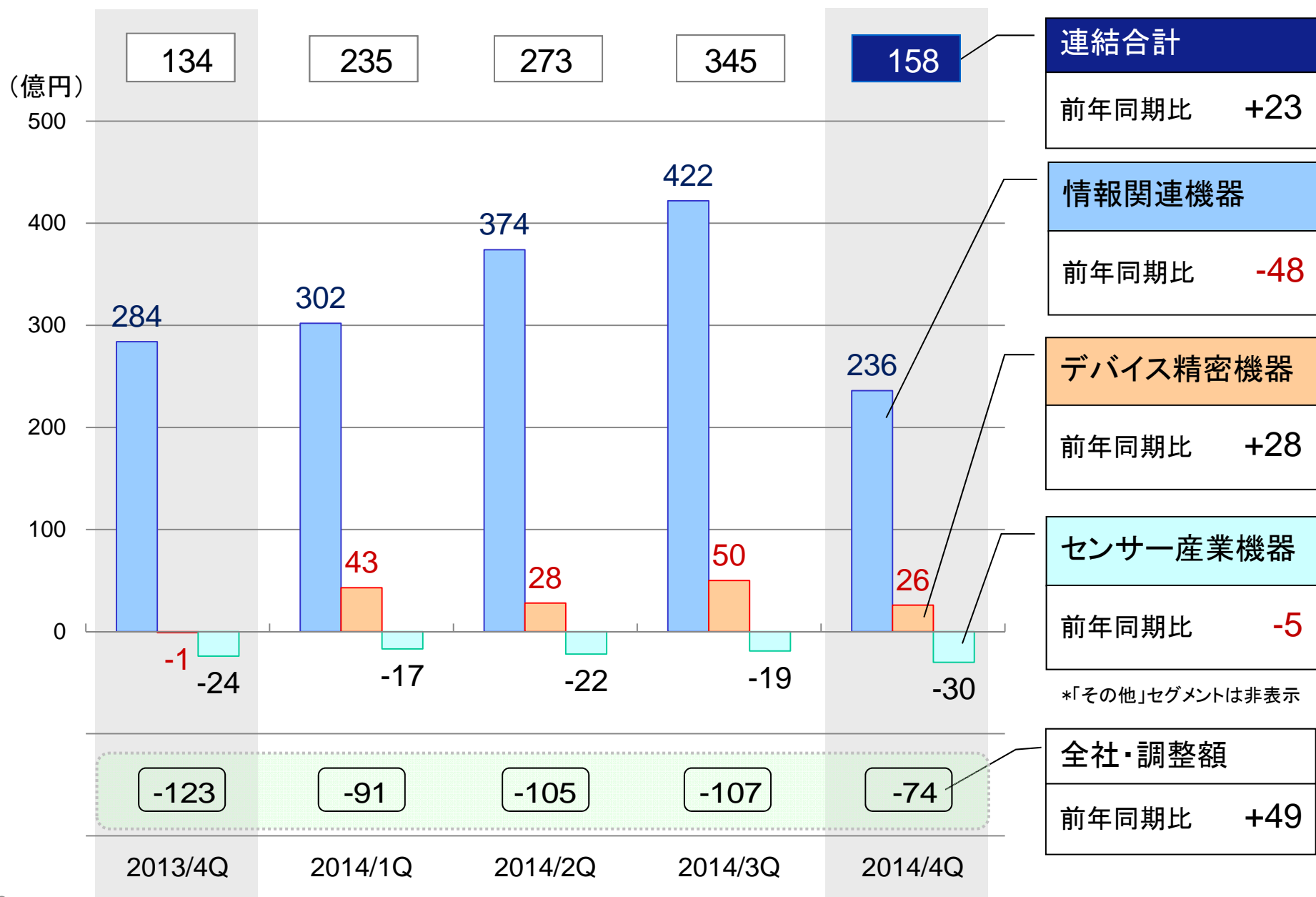


※ IJP: Inkjet printers Page: Page printers BS: Business systems SIDM : Serial impact dot matrix printers
POS: Point of sales SCN : Scanners PRJ: Projectors

四半期販売費及び一般管理費推移



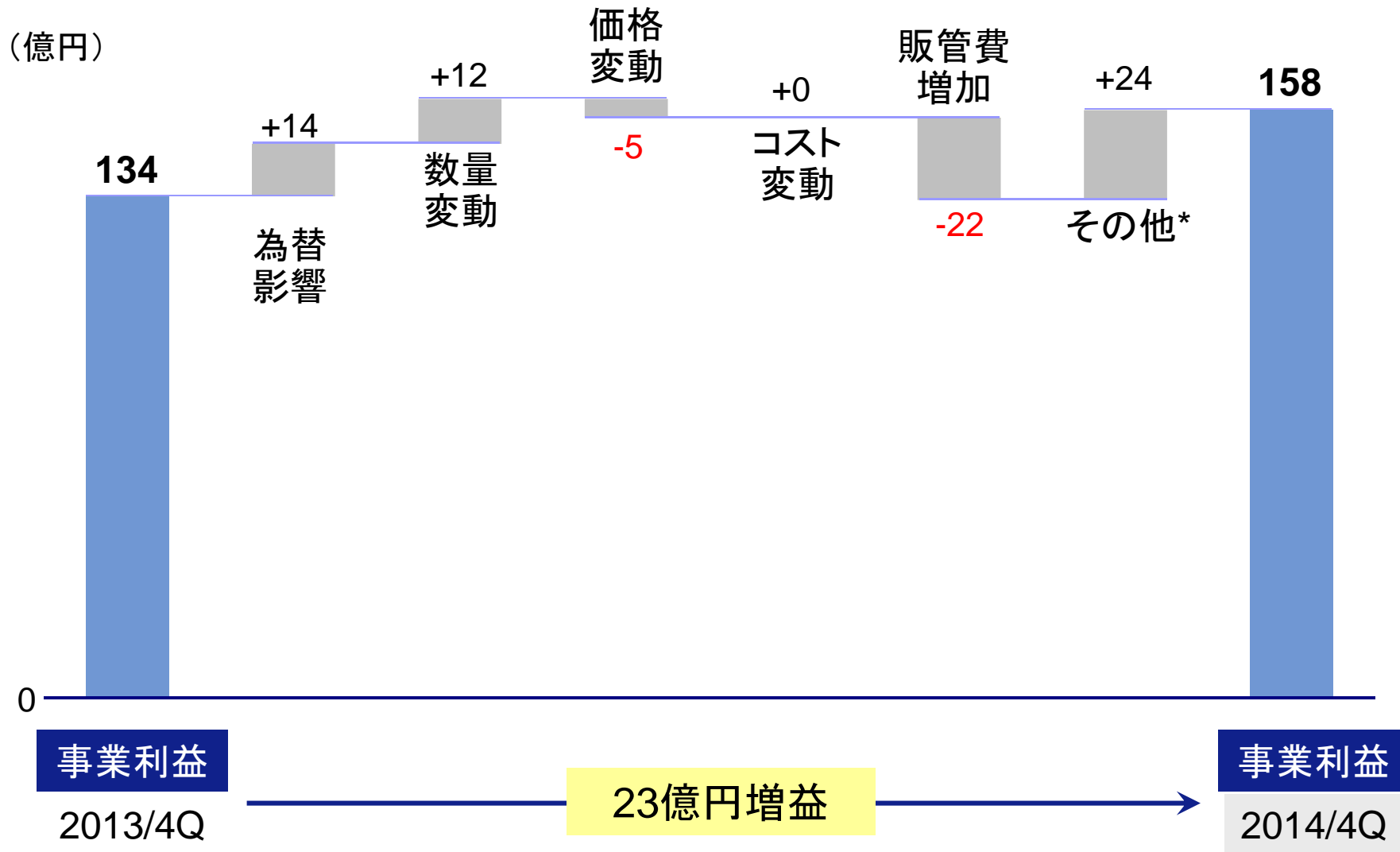
四半期事業利益推移 ▶ 事業セグメント別



- ◆ 情報関連機器の事業利益は、ビジネスシステムおよびプロジェクターは前期並みも、IJPが環境変化の影響等により減益
 - ✓ 大容量インクタンクモデル、商業プリンター、北米を中心にIJP消耗品が着実に伸長
 - ✓ 一方で、前年の消費税増税前の特需影響で国内におけるIJP消耗品の減収、ドル高に伴うIJP本体製造コスト上昇、港湾問題に起因する輸送コスト増加、先進国でのプロモーション強化に伴う販促費・広告宣伝費等の増加などにより、減益
- ◆ デバイス精密機器は、各事業で増益
 - ✓ 水晶は固定費削減、半導体は外販・内需・ファンドリーともに堅調、ウオッチはアストロン等の国内ブランド品が好調に推移し、増益
- ◆ センサー産業機器は、減収により減益
- ◆ 全社では、特許料収入もあり、増益

- ◆ 情報関連機器の事業利益は、ビジネスシステムおよびビジュアルコミュニケーションが未達
 - ✓ ビジネスシステムは、南米通貨下落、ロシア・アフリカ政情不安などの影響を受ける
 - ✓ ビジュアルコミュニケーションは、南米通貨下落、米国西海岸港湾スト、ロシア販売低迷、西欧・中国の教育案件遅れなどの影響を受ける
 - ✓ IJPは、本体数量の若干未達、ドル高による本体製造コスト上昇があったものの、販売価格は計画線、消耗品の売上堅調、以上の結果、計画達成
- ◆ デバイス精密機器の事業利益は、為替効果もあり計画を上回る
- ◆ センサー産業機器の事業利益は、計画線

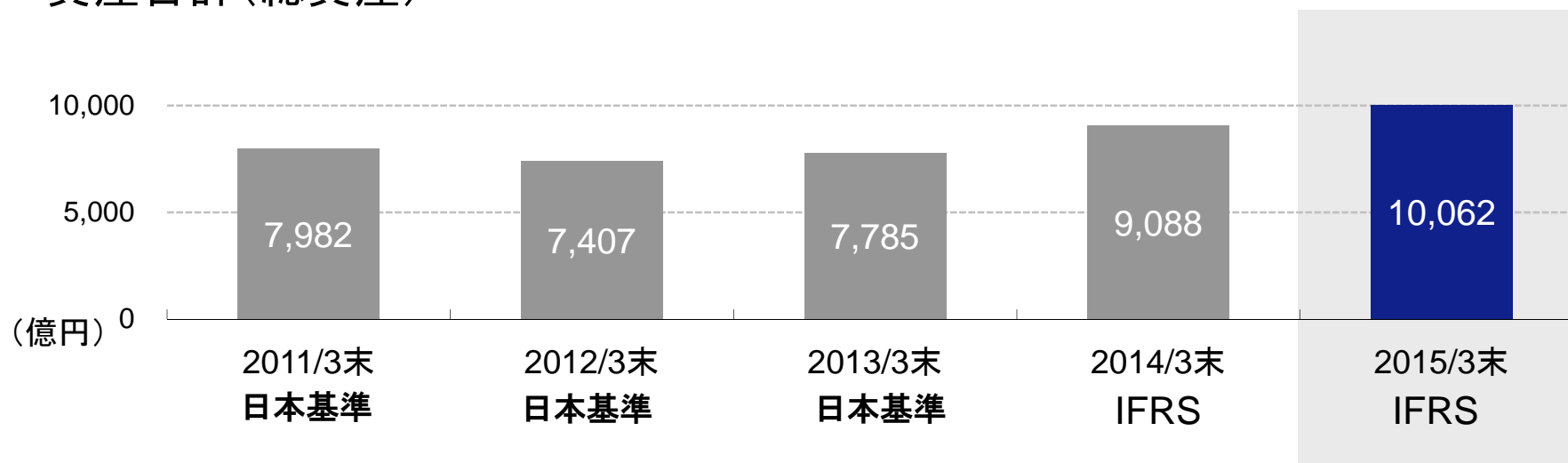
事業利益増減要因分析



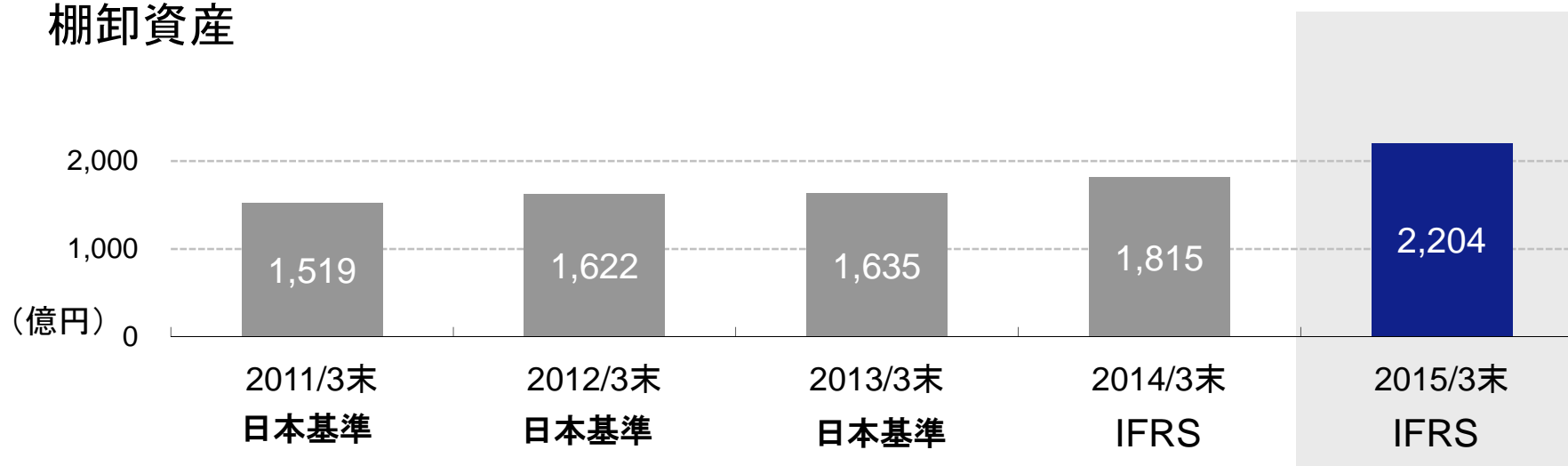
*: 全社費用セグメント及び各セグメントにおいて類似商品同士の比較に適さない商品・事業の増減の総計

財政状態計算書主要項目推移

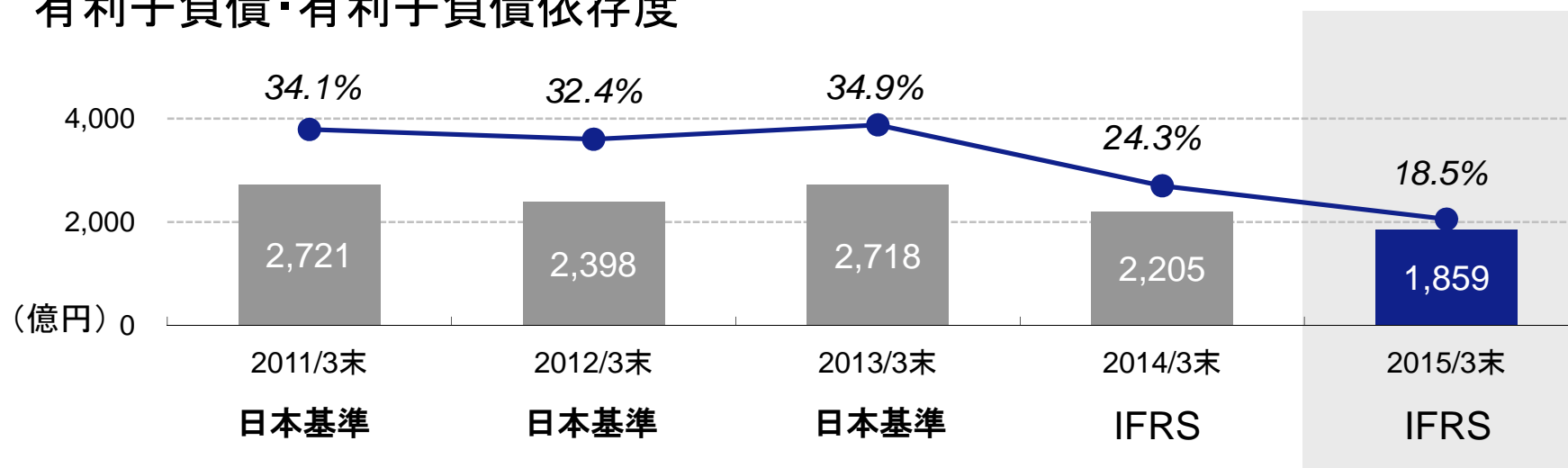
資産合計(総資産)



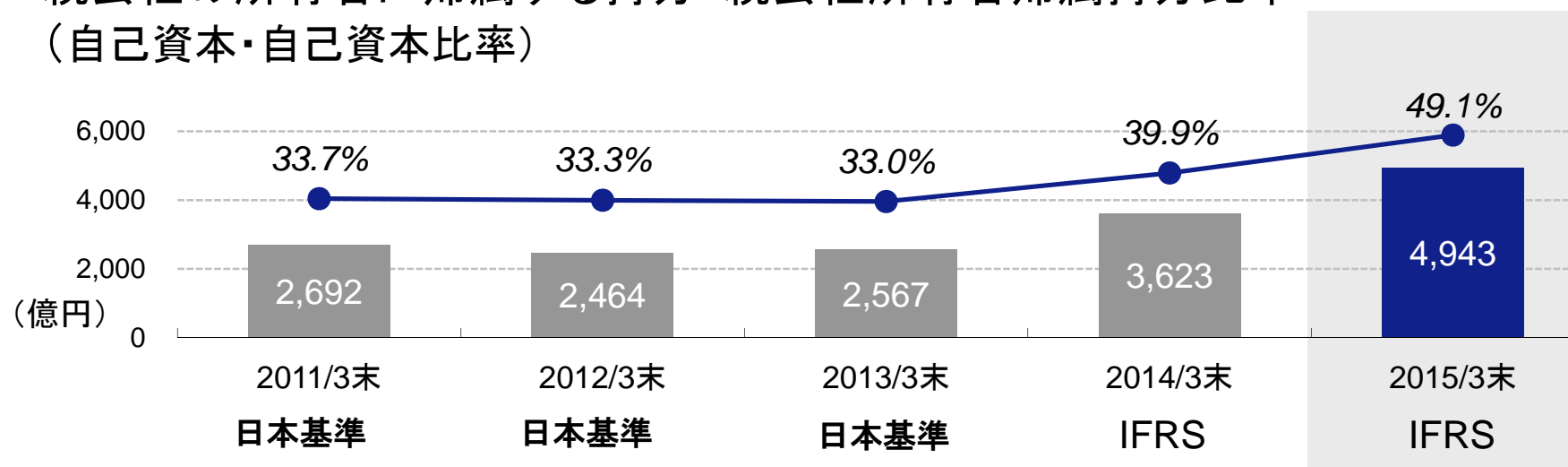
棚卸資産



有利子負債・有利子負債依存度

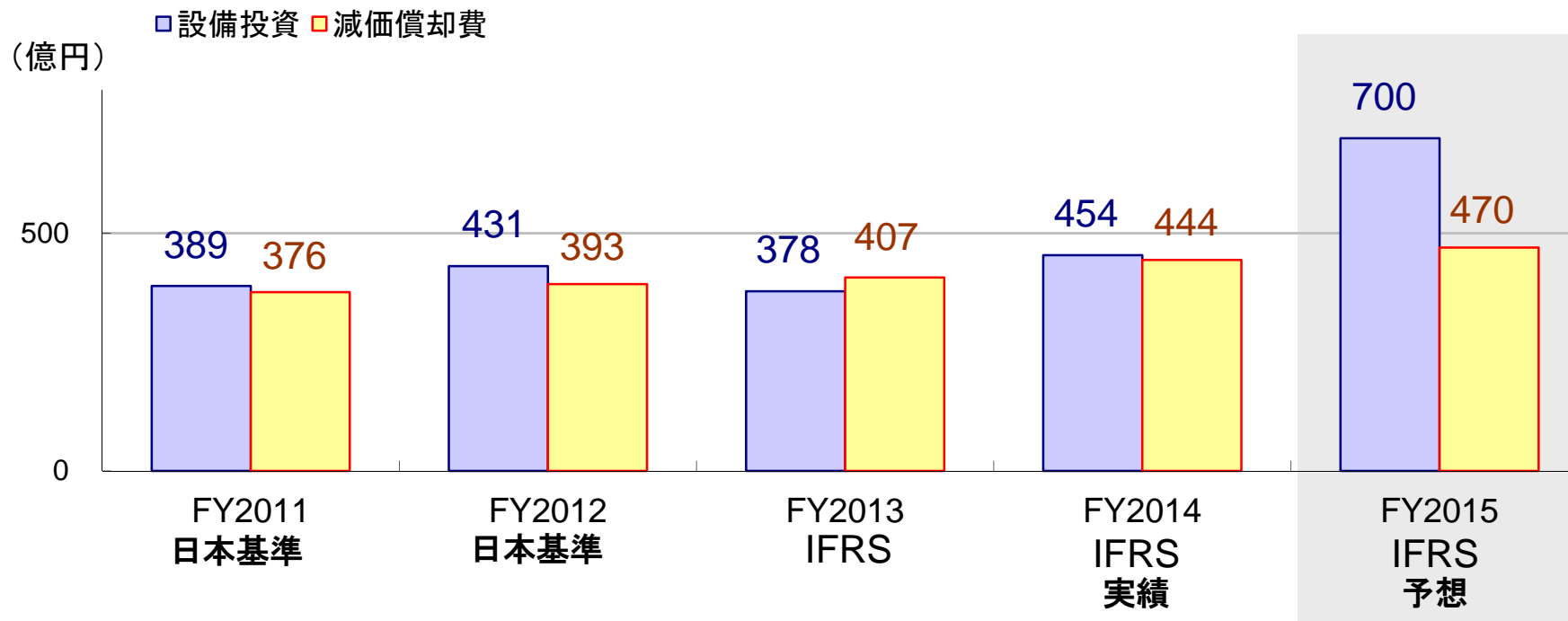


親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率 (自己資本・自己資本比率)



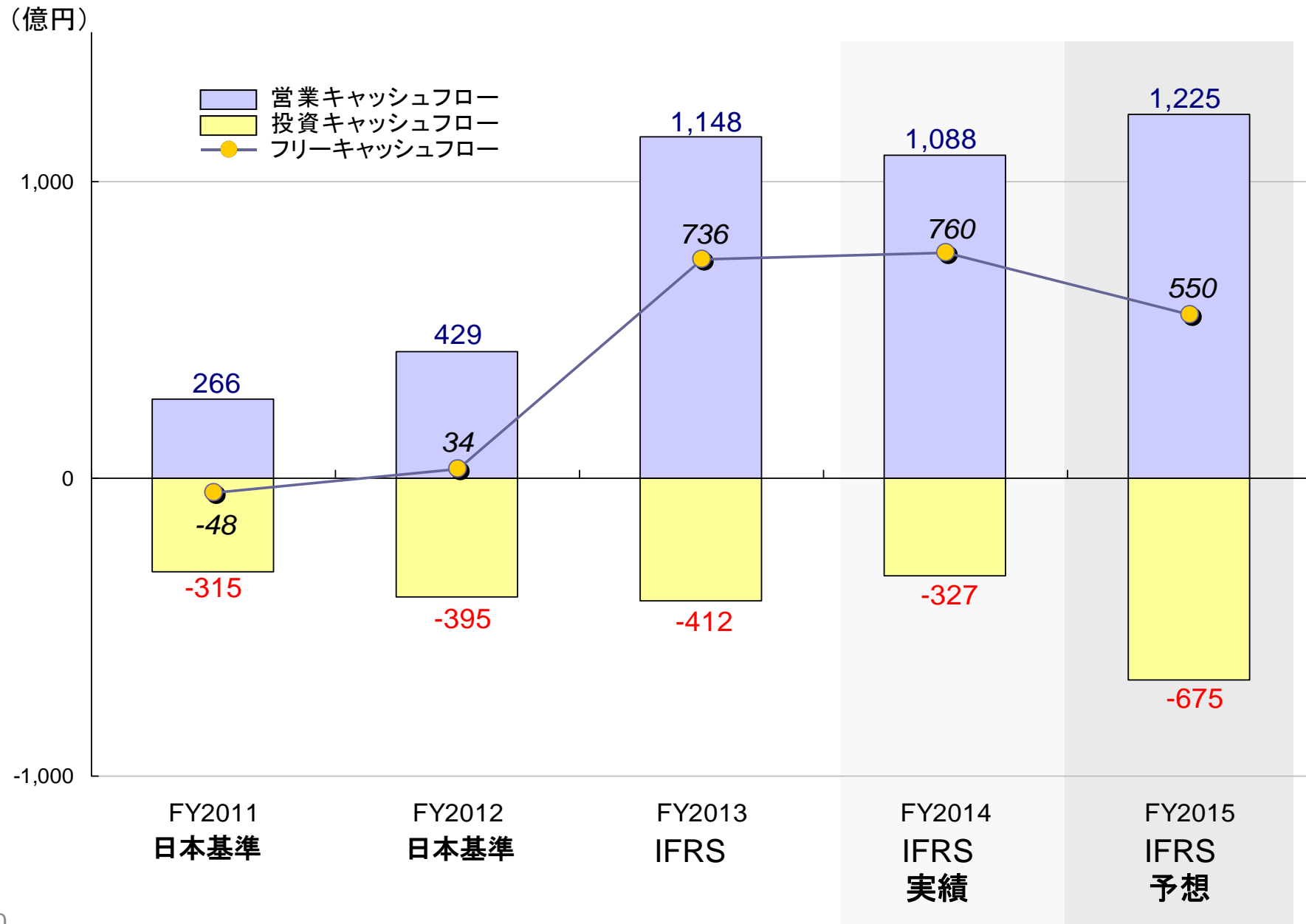
*有利子負債:リース負債を含む

設備投資・減価償却費見通し

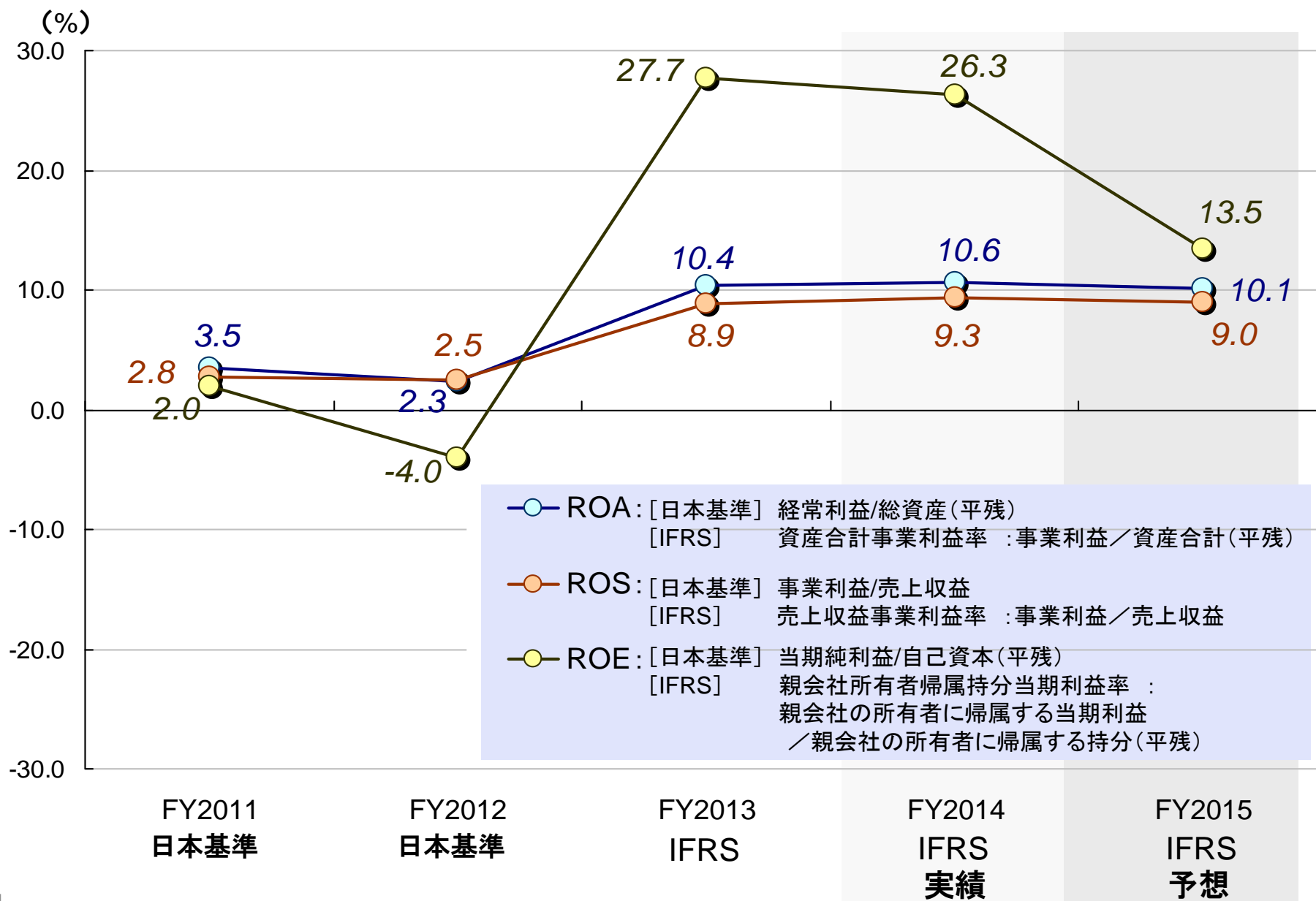


<セグメント別内訳>	FY2014 実績		FY2015 予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	221	230	320	250
ビジュアルコミュニケーション	68	72	90	80
ウェアラブル・産業プロダクツ	83	80	90	90
その他・全社費用	80	61	200	50

フリーキャッシュフロー見通し



主な経営指標の推移



◆ 配当の考え方 : 連結配当性向30%

本業による利益を示す事業利益から、法定実効税率相当分を控除した利益を基とし、配当性向が30%となるように配当額を定める

<一株当たり配当>

2014年度	115円 (中間 35円 / 期末 80円)
2015年度(予想)	※ 60円 (中間 30円 / 期末 30円)

※ 2015年4月1日付で、1:2の株式分割を実施済

EPSON
EXCEED YOUR VISION